戸部卿談曰、郭公者非眞也、負沓手タル鳥ノ呼云、保止々岐爪、保止々岐爪止云也、眞實郭公鳥者、隱居於卯花垣云、コトゴトシト云也、又萬葉集云、藍縷鳥者鶯子也、昔人宅之樹蔭ニ造巣生子、漸生長之比近臨見之、自鶯頗大鳥羽毛漸具ニハ舐其羽、卽奇思之間、ホトヽギスト鳴去了云云、

〔八雲御抄三下鳥〕郭公　山郭公　ときの鳥　ゑでのたをさ　うなひご童になるゆへなり　つまごひ萬よぶと　萬十八、九、依夏節喧と見たり、もとななくとよめるは、わが名をよぶ心なり、萬、いにしへこふる鳥とよめり、橘はやとり也　萬、さ月の玉にぬくまでと云り、是郭公をくす玉にぐせんといへる也、萬、鶯のかひこの中に一ありと見えたり、ちゝは郭公也、はゝが鶯也、うつゝまことと云り、まこは眞子なり、又卯月にたてばよごもりになく、さ月まつまは玄のびね、又いさりなく、よなきを玄つゝなどいへり、萬、又あみとりといふは、郭公をあみにてとりて、明年夏まづなかせんと云心なり、又萬、朝ざりのやへ山こえてと云、又あふちの枝にゆきてゐばと云り、又萬、をとのかれかに玄はつは、さは〳〵ときくもはつときく心也、をちかへりは無風情、はつね　忍びね

〔藏玉和謌集雜〕橘鳥　堀川院異名　時鳥　奥義集　くきら　郭公

〔藻鹽草十鳥〕時鳥　依夏節鳴と見えたり

初時鳥　但宗祇法師云、未歌に見えず、連歌にもすまじき也と云々、　山時鳥　ときの鳥　玄でのたをさ　たをさ鳥　うなひご鳥　中略　橘鳥　藏玉　くきら　同中略　常詞鳥　百聲鳥　よたゞ鳥　玉迎鳥　五露鳥　田歌鳥　早苗鳥　草つく鳥　賤鳥　たそがれ鳥　いもせ鳥　玉さか鳥　鏡暮鳥　うつた鳥　さくめ鳥　めづら鳥　さくも鳥　夕かけとり　是不審、鷄歟、時鳥ならば夕影歟、下略

〔東雅十七禽鳥〕杜鵑　ホトヽギス　倭名抄に唐韻を引て、鷓鴣はホトヽギス今之郭公也と註せり、ホトトギスとは鷓鴣の啼聲なり、十王經に見えたり、倭名抄に見えし所の如きは、我國の中世より云